論文の内容の要旨

論文題目　「平家物語」の構造と展開

氏　名　渡辺達郎

小論は『平家物語』の諸本・本文研究として、対象とした異本の組成・構造を認識し、諸異本の展開相を把握することを目標に、考究を加えたものである。

序章では、従来の研究史を概括し、異本の全体的把握を進行するような検討の方向性を確認した。

第一章では、『平家』成立伝承のひとつ『平家勘文録』が当道座において成立した伝承叙述であることを指摘し、それは語り本系の異本屋代本、覚一本の存在が反映したものと考察した。

第二章では、語り本系異本屋代本が、この系統の異本の中で最も古態を保存した異本であることを、その本文内容や巻構成の諸点から説明した。これは語り本系異本の原初の姿を示したものと考えられる。

第三章では、覚一本が屋代本からの発展、展開を示した語り本系異本であることを、読み本系異本本文の増補という観点から、言及した。その増補の材料となったのは諸異本中最古態異本の位置が確立されている延慶本に近似する異本であると考える。

第四章では、覚一本の一章段「青山之沙汰」の成立について検討した。従来田楽能の演目に影響を与えたと考えられてきたこの章は、実はその関係は逆で、田楽能から示唆を受けて本文叙述をなしたものと捉えた。この結論により、覚一本の成立時期が南北朝期の書写時点に認められることになる。

第五章では、四部本と『平家勘文録』の関係に言及した。第一章で考察したように、『勘文録』と語り本系異本の関連を述べることが可能であるとなると、従来四部本と関連すると考えられてきた『勘文録』の叙述もその関係を逆に考えることができるようになる。四部本とは、『平家』成立伝承から示唆を与えられて成立した異本ではないか、という可能性について言及した。

第六章では、前章に続く考察として四部本の付属資料とされる『平家族伝抄』・『平家打聞』の成立について、やはり四部本と同様に『勘文録』という伝承叙述の中にその根拠を見出し得ることを述べた。

第七章では、四部本及び四部本と先後・依拠関係が想定される真名本『曽我物語』という二書の関連について、従来四部本先行と捉えられ勝ちであったことを疑問とし、真名本『曽我』先行と認め得ることに言及した。四部本成立の契機として真名本『曽我』に記された別の伝承叙述の存在についても述べた。

第八章では、『平家』諸異本群の変遷・展開過程について、諸異本の巻構成に注目することにより、跡付けを行なった。その中で、現存しない想定異本の変遷経過についても言及を加えた。